

私にとって読書とは？

看護学部講師 木庭淳子 (2015.12.9)

私が本に出会ったのは、小学6年の時でした。友達に借りた『少年少女世界文学全集』を読んでからです。一番印象に残っているのは、南アフリカを旅するうちに、切り立った台地の上を今まで見たこともないような鳥（始祖鳥）が飛んでいるのをみて、その台地を探検する話です。まるで、映画化されたジュラシックパークのような話でした。本のおもしろさに気づいたのは、その時です。

中学から高校では、姉が買ってきた恋愛小説、井上靖、北杜夫、夏目漱石、エラリー・クイーン、松本清張、森村誠一、星新一、吉川英治、山本周五郎、団伊玖磨など様々な本を乱読しました。高校になって一番感動した本は、芹沢光治良の『人間の運命』です。全巻読みました。生きる上で様々な困難なことに出会うかもしれないが、自分がどう生きたいかという信念をしっかりとって生きることが大切とこの本で学びました。中学高校と外で遊んだり、スポーツをするより自宅で本を読んで過ごしました。現在は、アメリカのジェフリー・ディーヴァーという作家の作品が大好きです。最後まで犯人がわからず、わくわくしながら読んでいます。私は、本を読みながらローマを旅したり、事件を解決したり、女性探偵になり犯人と格闘したりしています。私にとって読書は、ストレス発散、気分転換になっています。

私の専門はがん看護学ですが、最近感動した本を紹介します。『癒し癒やされて』16歳の少女が死ぬ前に一度ウエディングドレスを着たいといった話が載っています。栄光病院ホスピスの実話です。もう一冊は、『ホスピスさよならのスマイル』です。患者さんの心に寄り添うとはどういうことかが理解できる本（写真が多く読みやすい）です。最後に、『人は命だけでは生きられない』という一冊。これは、介護士で牧師の作者が介護施設で熱く実践している記録です。この本も読みやすいです。皆さん一度読んでみてください。

【紹介された本】

①『人間の運命 全18巻』 芹沢光治良著 勉誠出版 2013

②『癒し癒やされて—栄光病院ホスピスの実録』

下稲葉康之他著 いのちのことば社フォレストブックス 2003.12

③『ホスピスさよならのスマイル』 岩本宣昭他編著 弦書房 2008.7

④『人は“命”だけでは生きられない～介護現場で魂に寄り添う牧師の奮闘記～』

佐々木炎著 いのちのことば社フォレストブックス 2011.12

※①②当館に所蔵はありませんので、最寄りの公共図書館等をご利用下さい。

③490.14:G62 ④369.26:Sa75 ※③④は当館に所蔵しております。